

成果発表・イベント続々と

アートの現場から

ACCAC通信

現在、国際芸術センター青森では、公募のアーティスト・イン・レジデンスプログラム「Making Things」の一環で、9月からリモートも含む滞在制作を始めたアーティスト達の活動が次々と始まり、現在開催中のネイタンド・ディコン＝フルタド「共同展示ラポールACCACのフールドワーク」も11月13日(日)までの開催となりました。

追いかけるようにして、他のアーティストの発表も始まります。11月に展覧会のオープンを迎えるアーティストのうち2名、ヴァネッサ・エンリケスさんと橋本晶子さんの制作の様子をご紹介します。

今年2020年パンデミック以後ACCACにとって、海外在住のアーティストの約3年ぶりに招聘となります。エンリケスさんはVHSテープを使って空間に描くように作品を展開しているメキシコ出身ドイツ在住のアーティストです。10月18日(火)ー12月6日

い天井を持ちますが完全なホワイトキューブでも生活空間でもありません。会場のギャラリーAは上部に窓があり光が差し込むので、常に表情が異なる空間に對峙しながら日々制作を進めています。どのような風景が立ち現れるでしょうか。

橋本さんの個展「影を誘う」は11月20日(日)から12月11日(日)まで、11月22日(火)、23日(水)、24日(木)、26日(土)、27日(日)にはプライベートルツァー「影に触れる」で、じっくり作品を味わう(綾)



Installation view 「Yesterday's story」 Cit é internationale des arts / Paris 2018
撮影：Watson studio